

図書館用語集



図書館を利用して「この用語どういう意味？」ということがありませんか。図書館では、あまり馴染みのない用語を耳にすることがあります。そこで図書館でよく使われる用語を紹介します。図書館用語をマスターして、君も図書館を有効活用しよう！

あ
行

ISSN (あいえすえすえぬ)

International Standard Serial Numberの略称。国際標準逐次刊行物番号のことで定期刊行物、新聞や雑誌などの逐次刊行物を識別するために付与されるID番号のことを指します。OPACやインターネットなどで雑誌を探す時にこのIDを使うと便利です。

ISBN (あいえすびーえぬ)

International Standard Book Numberの略称。国際標準図書番号のことで図書を識別するために付与されるID番号のことを指します。OPACやインターネットなどで本を探す時にこのIDを使うと便利です。

ILL (あいえるえる)

Interlibrary-Loanの略称。東洋大学で所蔵していない資料を他の図書館から借りたり、論文の複写を取り寄せたりするサービス(有料)のこと。OPACから申込みできますが、初回のみカウンターで手続きが必要です。

延滞 (えんたい)

借りている資料を返却期限が過ぎても返却していないこと。延滞中は、資料の貸出や延長ができません。

OPAC (おーぱっく)

Online Public Access Catalogの略称。図書館の所蔵資料を検索するためのシステムのこと。資料検索以外にも図書の予約・取り寄せ、貸出状況確認、貸出延長などもできます。

オンラインデータベース (おんらいんでーたべーす)

東洋大学附属図書館が契約している新聞・雑誌記事、百科事典、学術論文、法令・判例などさまざまな情報を検索するためのデータベースのこと。学内のネットワークに接続したPCからアクセスできます。

か
行

学生リクエスト図書 (がくせいりくえすととしょ)

学習・研究に必要な資料が図書館に所蔵がない場合、図書館に所蔵するように学生がリクエストできる制度です。カウンターで申し込みができます。

機関リポジトリ (きかんりぼじとり)

学術論文や研究報告書などさまざまな学術情報をインターネットに公開しているサービスのことです。世界中のどこからでもインターネットを通じて論文等のコンテンツをダウンロードできます。また、主な対象のコンテンツは、大学独自で刊行されている紀要等です。なお、本学では「東洋大学学術情報リポジトリ」と言います。

コンソーシアム・協定校 (こんそーしあむ・きょうていこう)

東洋大学附属図書館は他大学図書館と相互協力の協定を結び、コンソーシアムを形成しています。本学の学生・教職員は、コンソーシアムに加盟している他大学図書館を東洋大学の学生証・身分証明書で利用できます。例えば、山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム。加盟大学は、青山学院・学習院・國學院・法政・明治・明治学院・立教・東洋です。

さ
行

自動貸出返却装置 (ABC) (じどうかしだしへんきゃくそうち)

カウンターで手続きしなくても、この装置を使えば、セルフサービスで借りたい図書の貸出・延長・返却の手続きができます(白山図書館は貸出・延長のみ)。未製本雑誌・視聴覚資料は、カウンターで手続きをお願いします。

紹介状 (しょうかいじょう)

東洋大学附属図書館に所蔵がなく、他大学・他機関の図書館に所蔵がある場合、直接その図書館に出向いて資料を閲覧することができます。その際に持参する東洋大学附属図書館が発行している書類のこと。また、閲覧願(えつらんねがい)とも言う。希望がある方はカウンターにご相談ください。

資料番号 (しりょうばんごう)

東洋大学附属図書館資料を特定する本学特有のID番号(バーコード)を指します。OPACで検索したときに表示されます。

請求記号 (せいきゅうぎごう)

図書館で資料が並べられている位置を示す記号のこと。請求記号のラベルは資料の背表紙の下部に貼られていますので、このラベルの記号を頼りに資料を探します。図書館の資料は日本十進分類法(NDC)に基づき分類された番号・記号の順番に並べられています。

製本雑誌 (せいほんざっし)

雑誌の破損、散逸などを防止するために、数冊をまとめて1冊の本のように製本した雑誌のこと。ちなみに新刊雑誌など製本されていない雑誌のことを「未製本雑誌」と言います。

た
行

電子ジャーナル (でんしじゃーなる)

雑誌の電子メディア版。オンラインジャーナルのこと。紙版と電子版の両方で出版されるものもありますが、最近では電子版のみ刊行されるものも増えています。東洋大学が契約している電子ジャーナルは学内のネットワークに接続したPCからアクセスが可能です。

は
行

配架 (はいか)

新規に受け入れしたり、利用された資料を書架の所定の位置に配置すること。あるいは排架(はいか)とも書きます。

ま
行

マイクロ資料 (まいくろしりょう)

図書や雑誌などの内容をフィルムに写した資料(マイクロフィルム・マイクロフィッシュ)のこと。これらの資料を閲覧するには専用の装置を使用するため、カウンターでの手続きが必要です。

ら
行

レファレンス (れふあれんす)

探している文献が見つからない、どうやって調べていいかわからないなど困ったときに、図書館のスタッフが相談にのってくれるサービスのこと。レファレンスカウンターにご相談ください。

CONTENTS

P2 〈特集〉

私の図書館活用法

～図書館の「ここが好き!」～

P4 館長・副館長紹介

P5 図書館トピックス

P6 知ってるほど! 著作権講座

P7 東洋大学創立125周年 特別展示報告

P8 図書館用語集

私の図書館活用法

～図書館の「ここが好き！」～

聞いてみました。
図書館の「どこが好き？」

- 1 「お気に入りの場所」はどこですか。
- 2 「お気に入りの過ごし方」は何ですか。
- 3 よく利用している図書や、好きなジャンルは何ですか。
- 4 よく利用するサービスは何ですか。
- 5 読者へのメッセージ

白山

さく ま だい ち
佐久間 大地

経済学部 経済学科4年



軽読書コーナー

- 1 軽読書コーナー
- 2 授業の開始前や合間に、息抜き、気分転換として利用しています。
- 3 好きなジャンル: 軽読書(就職関係、趣味)
特に好きな図書:
『だれも教えてくれないビジネスマナーの本当の常識』
みんなの基礎知識プロジェクト編 自由国民社
- 4 図書館所蔵展の見学

Message

5 皆さんこんにちは。大学生といえば遊びにバイトに大忙しといったところですが、何といても一番の本分は勉強です。そんな勉強になくてはならない図書館の、私のお勧めする使い方を紹介します。

試験前、家では落ち着いて勉強ができない、という人は多いと思いますが、そんなときには図書館を活用してください。

図書館では試験前でも落ち着いて勉強ができます。

白山図書館は席が1,400席以上あり、試験前でも安心して場所を確保できます。また100万冊近い蔵書数があり、必要な資料を探し出せる蔵書検索システム(OPAC※)、また、レファレンスサービス※もあるので、ほしい本はすぐ見つかります。使いたい資料が白山図書館に無い場合でも、他の図書館から取り寄せることができるので安心です。

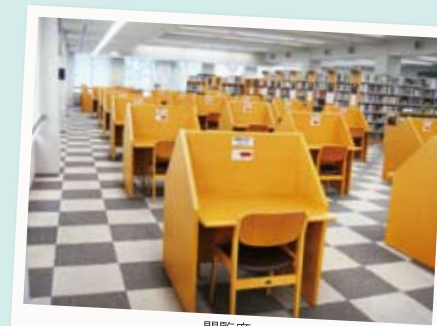
今後の大学生活を豊かに過ごすために、是非図書館を利用してください。



朝霞

やなぎ はら ひろ き
柳原 寛紀

ライフデザイン学部
生活支援学科2年



閲覧席

- 1 閲覧席
- 2 興味のある分野の本を読んで、知識を深めています。
- 3 好きなジャンル: 心理学
特に好きな図書:
『ユング心理学入門』 河合隼雄 著 岩波書店
- 4 他キャンパス図書館から図書・雑誌の取寄せ

Message

5 皆さん初めまして。僕は普段授業やサークル、バイトや交友関係で忙しく、楽しい毎日を送っていますが、図書館には最低でも週1回は訪れています。

僕は自分の専攻している分野の本だけに限らず様々な知識を得て、一つの枠に捉われず広い知見をもっていきたいという思いが強く、図書館を利用させて頂いています。自分の興味のある本を見つけたらそれを手に取り、閲覧席で読み漁ります。そして、疲れが出てきたら違う分野の本を読んで脳をリフレッシュさせる、または視聴覚コーナーにあるDVDを観てリラックスをしてまた自分の興味のある本に戻る、そして疲れてきたら違う本やDVDを観る…この繰り返しが僕の図書館でのルーティンとなっています。

皆さんも、自分に合った図書館の利用法を見つけることで、より充実した大学生活を送れることと思います。



川越

よね つ しょう た
米津 翔太

理工学部 応用化学科3年



グループ学習室

- 1 グループ学習室
- 2 グループでの試験勉強
- 3 好きなジャンル: 理工書
- 4 レファレンスサービス※

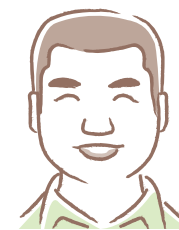
Message

5 入学以来、私はレポートや勉強などで利用しています。例えば、実験レポートでは参考文献を使って作成します。レポートにどんな本を使えばいいのか迷ってしまう時には図書館の方に尋ねることで多くの理工書の中から目的の本を探し出すことができます。また、講義のレポートで英語論文を使うことがあります。そんな時、大学のPCからは論文を無料で閲覧・印刷することができ、論文の探し方も馴染みのあるカウンター係員から教えてもらっています。

定期試験前には、グループ学習室を借り友達と勉強をしています。グループ学習室は、図書館内にあり、必要な時に本を探して持ち込めるので便利です。また、ホワイトボードもあるので、友達同士で教えあうこともできます。

さらに、日刊工業新聞などの工業系新聞が置いてあるので、最新技術やその原理などの情報を本以外からも収集することができます。

ここにあげた図書館活用法は、あくまでも一例です。皆さんにあった図書館活用法を探しに図書館へ行ってみてはいかがでしょうか。



板倉

さかい し お り
酒井 しおり

生命科学部
応用生物学科4年



閲覧席

- 1 閲覧席
- 2 自習、授業&実験のレポート作成、書籍・資料の閲覧、閉館前のBGMの鑑賞など
- 3 特に好きな図書: 『Brock微生物学』Michael T. Madigan著 オーム社
特に好きな雑誌: 『Newton: graphic science magazine』ニュートンプレス
- 4 レファレンスサービス※
他キャンパス図書館から図書・雑誌の取寄せ
OPACを使っの予約、ガイダンスの受講、ILL(文献複写)サービス

Message

5 私にとって図書館は“新たな知に出会える場所”でした。授業や実験レポート作成時には私の右腕のような存在であり、全キャンパスから資料を取り寄せる事もありました。借りた本に惚れて購入した物も多くあります。更に年に数回行われる所蔵資料展は、博物館に行かずして貴重な学術資料に触れられるので大変魅力的でした。

自習スペースも完璧で2Fの窓から見える山岳風景もいいのですが、私にとっては、閉館前の静寂な館内に響くショパンのノクターンを聞く時が至福の時でした。高価な専門書も無料で閲覧できますし、学生の懐事情を考慮した複写サービスもあるのでフル活用しないと損ですよ！至れり尽くせりのサービスのお蔭で有意義な時間が過ごせました。

ただ私は、4年間で東洋大学の全資料制覇を目指しましたが無理だった事が唯一の心残りです。どなたかチャレンジしてくださる事を願っています。




館長・副館長紹介

館長並びに今年度就任された方々を含む4名の副館長を紹介いたします。



Introduction

東洋大学
附属図書館
館長




小椋 康宏(おぐら やすひろ)

経営学部 経営学科 教授

専攻・専門分野：経営学、経営財務論
所属学会：日本マネジメント学会(常任理事)
日本経営学会(理事)
日本経営財務研究学会 等
著書等：共著「新版 経営学原理」2010(学文社)
論文「企業価値創造と現代経営者の経営理念」
『経営力創成研究』第7号、57-70、2011
東洋大学経営力創成研究センター 等

白山図書館
副館長




松本 誠一(まつもと せいいち)

社会学部 社会文化システム学科 教授

専門：人類学、韓国研究
所属学会：韓国・朝鮮文化研究会
鳥嶼コミュニティ学会
著書等：翻訳書「韓国の郷土信仰」1982
(張壽根著、第一書房)
共著書「文化人類学の視角」1980(犀書房)、
「文化人類学ノート」1987(犀書房) 等

川越図書館
副館長




和田 昇(わだ のぼる)

理工学部 機械工学科 教授

専門：物性物理学、機能材料学
所属学会：日本物理学会、応用物理学会、
アメリカ物理学会、日本高圧力学会
著書等：「Mathematica 3.0 による線形・非線形力学と
カオスへの入門」(改訂版)1998(サイエティスト社)
その他、51 編の原著論文
(http://www.eng.toyo.ac.jp/~nwada/
WADA/nwadapublication.html)

朝霞図書館
副館長



内田 祥士(うちだ よしお)

ライフデザイン学部 人間環境デザイン学科 教授

専門：建築学
所属学会：日本建築学会
著書等：「東照宮の近代 一都市としての陽明門」
(ベリかん社)2009
作品：「人間環境デザイン学科実験工房棟」
(久米設計+内田祥士)

板倉図書館
副館長



下村 講一郎(しもむら こういちろう)

食環境科学部 食環境科学科 教授

専門：植物細胞工学、植物資源学
所属学会：日本薬学会、日本植物細胞分子生物学会、
日本食品化学会、日本農芸化学会、
International Association of Plant Biotechnology
著書等：共著論文「新たな有用物質生産のための
植物バイオテクノロジー」
「バイオインダストリー」22 巻 8 号、45-51、2005
共著「植物ゲノム科学辞典」2009(朝倉書店)
共著「廣川食品衛生辞典」2000(廣川書店) 等

2012年4月に附属図書館長に就任して以来、1年が過ぎました。
図書館としては、昨年は創立125周年記念事業に関わる各種の展示を行って参りました。
また現在東洋大学学術リポジトリの構築を積極的に行っております。ところで125周年
記念館の完成に伴い、現行白山図書館の改装がなされ、閲覧席の増設、パソコン施設の
充実をはじめとして、一部ラーニング・commonsの導入もされます。川越図書館、朝霞図書
館および板倉図書館においても、データベースや電子ジャーナルの利用をはじめ、研究・
教育・学習への支援を進めてまいりたいと思います。
東洋大学附属図書館の「将来構想」を考え、新しい附属図書館の理念のもとに、新しい
図書館を創造すべく邁進していききたいと思います。

東洋大学図書館は図書・雑誌・電子ジャーナル・電子データベースの購入に年間3億円
近い予算を使っています。しかし、その一方で白山図書館は図書資料等の増加に伴い書庫
スペースの狭隘化の問題を抱えており、新規購入図書を置く場所を確保するために関係者
一同、苦心しています。2013年に施行された閲覧席と書架の増設工事もその一環ですが、
どんどん増える図書を収納するスペース問題は解消されません。共同学習室は各棟に
開設するのも一案でしょう。苦労はありますが、利用者の皆さんが図書館をもっと活用
してくれれば報われます。大学図書館は専門図書館としての機能を有しており、その機能
を活用するノウハウを身に着ければ、文字通り「知は力なり」です。

三十数年前、シカゴ大学に留学していた頃、大学の図書館というのは膨大な数の本と雑
誌のある知の宝庫で、静寂で学究的な雰囲気を持っていました。私はその雰囲気が好きで、
よく夜中まで図書館で勉強をしていました。疲れると、日本語の書籍コーナーへ行き、立ち
読みしたことを懐かしく思い出します。
さて、今の図書館はどうでしょうか。残念ながら、そのようなイメージは薄れ、マルチメ
ディア化が進み、音楽を聴いたり映画を見たりすることさえできます。インターネットで
世界に繋がりが、文献検索やデジタル化された本や論文も簡単に入手できます。この利便
性をさらに向上させることが今後の図書館の重要な仕事だと私も考えますが、あの頃私が
経験した雰囲気が今の図書館にももっと溢れるようになるとさらによいと思っております。

引き続き副館長を務めさせて頂くことになったライフデザイン学部の内田です。東洋大
学が創立125年、日本が開国して、既に150年以上の月日が流れました。今、漸く近代とは
何であったのかという事が明らかになって来た様にも思われますが、それにつれて、これか
らの困難さは格別だろうとの思いが強くなります。人間という生命の維持管理を使命とし
てきた医学は、気が付くと、人間を造れるかもしれないという時代に入り、逆に、社会的要
請の名の下に、ひたすら建設に勤しんできた建築や土木は、今や既存施設の維持管理に
忙殺されようとしています。図書館も例外ではありません。本の収集とその維持管理とい
う仕事が益々困難になる一方、電子書籍或はデータベースという実に危うい新しい収集対象
と向き合わなければならない状況です。各位の豊かなライフデザインを祈念します。

豊かな自然環境に囲まれた板倉図書館は、生命科学や食環境分野の資料を所蔵して
います。これまで、基本図書を揃えて学習支援を行ってきており、研究に必要な学術情報
を提供する書籍および電子ジャーナルの整備など知の収蔵庫として機能しています。
また、学びの場として学生が自主的に学習できる環境整備がなされてきています。
パソコンを使用すれば求める情報が簡単に入手できる時代ですが、レポート作成や試
験期間にだけ利用するのはあまりにもったいない。また、温故知新の諺のように過去の
資料からヒントを得ることもあります。静かな環境の中での智の交流の場として、板倉図
書館の更なる発展と図書館の有効活用を切に願っております。

図書館トピックス

図書館の新しい情報や様々な取組についてご紹介いたします。

2013年4月
白山図書館に
新エリアオープン！

■白山図書館リニューアル

白山図書館1号館地下1階部分に「ラーニング・commons」が新設されます。この「ラーニング・commons」は、従来から「静」の
ゾーンであった図書館の既存部分とは違い、「動」のゾーンとして誕生しました。従来の図書館資料とインターネット環境を基に、
学生の皆さんの多様な図書館利用を支援することを目的とした学習空間です。

■グループ学習環境がより充実します。

New!

ラーニング・フォレスト

【愛称】フォレスト(予約不要)

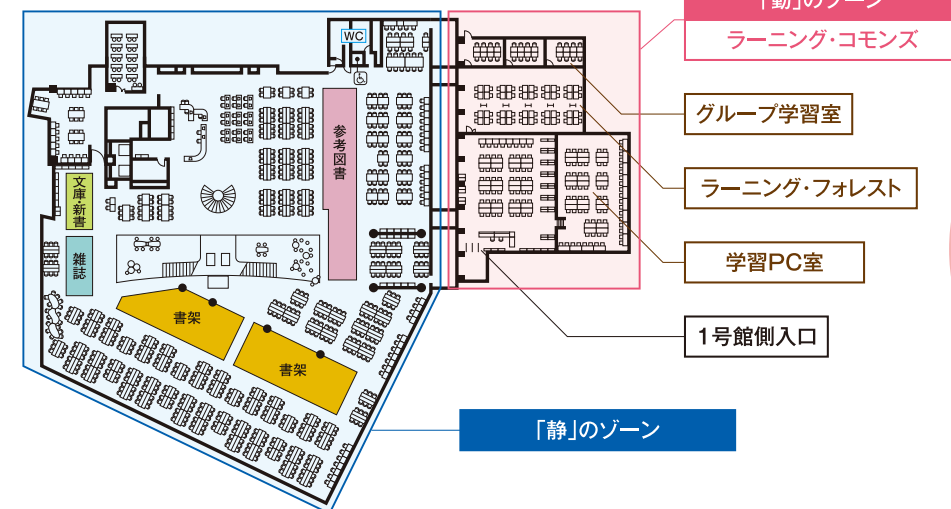
エリア内では、会話が可能となっており、一人での利用はもちろん、友人とのディスカッションや学習を自由に行う事ができ
ます。可動式の机とイスが用意されており、人数や目的に合わせて自由にレイアウトすることが可能です。また、ホワイト
ボードも用意されており、ディスカッションをサポートします。さらに、ノートパソコンの貸出サービスも行っています。

グループ学習室

【愛称】ぐるがく(要予約)

複数の利用者が話し合いながら学習することが可能です。利用するには、予約が必要となります。

■白山図書館地下1階マップ



ラーニング・commonsとは?
1990年代以降、英米の大学図書館で設
置され始めた学習空間のことで、「commons」は
「共有の場」を意味し、「ラーニング・commons」は
「学生がともに学習するために集う共有の場」と
捉えられています。白山図書館の「ラーニング・コ
mons」は、インターネット環境と従来の図書館
資料を有効に使い、学生同士がともに考え、
ディスカッションし、情報発信する場
として設置されました。

■インターネット環境が充実、 レポート作成もサポートします。

New!

学習PC室

【愛称】まなび(予約不要)

備付PCが設置されており、論文やレポートの作成はも
ちろん、無線LANを通じて、データベースや電子ジャー
ナルを利用できる環境も整備されています。ワード・エ
クセルの使い方等レポート作成に関しては、スタッフに
よる学習サポートも受けることができます。

図書館からのお知らせ

2013年4月より東洋大学附属図書館全館で、
フタ付き飲み物(ペットボトル・水筒など)が
飲めるようになりました。
飲み物は、各館の情報検索コーナーや視聴覚コーナー
など情報機器の設置されている場所以外の全てのフロ
アで飲むことができます。
※フタ付き飲み物はかばんの中にしまようご協力ください
(汚れを防ぐため机の上には置かないください)。

～あなたも図書館の達人になろう～ 図書館マスターポイントカード

図書館ガイダンスや所蔵資料展、データベース活用ガイダンスなどに参加し、既定のポイントを集めると、図書館
オリジナルグッズ(特製クリアファイルなど)をプレゼントいたします。
ポイントシールの数は、あなたの図書館の知識の数を示します。
これであなたも図書館の達人に!! ポイントカードはカウンターに置いてあります。
※イベント日程等の最新情報は、図書館ホームページや館内掲示でお知らせいたします。



知ってなるほど！著作権講座

日頃ニュースなどで話題になる「著作権」。大学生のみなさんにとって「著作権」の知識は学習・研究上のみならず、学生生活においても大変重要だということをご存知ですか？「著作権」は、「知的財産権」のうちの一つで、著作者の著作物や実演を保護し「他人に無断で利用されない」という権利です。そして「著作権法」によって保護されています。知らなかったでは済まされない「著作権」。それでは、どのような知識が必要なのでしょう。本学知的財産管理アドバイザーの野原時男先生に聞きました。

皆さんは意識しないでしょうが日々ありとあらゆる「著作物」に触れて生活しています。著作権法では「著作物とは、思想または感情を創作的に表現したものであって、文芸、学術、美術または音楽の範囲に属するものをいう」と定義されており、誰かが創作したものであれば、子供の絵でもピカソの絵でも等しく、その出来の良し悪しに関係なく、本、テレビ、ラジオ、新聞、音楽、映画などで見聞きするあらゆる創作物が「著作物」となりうるのです。

しかも日本では著作物は登録する必要がなく（無方式主義）、創作時点で自動的に創作者に与えられる権利（「著作権」）であるため、日常生活の中で絶えず他人の著作権を利用し、自らも創作した著作権を発信しつつ生活しているともいえます。殊に、近年はデジタル化・インターネットの普及により簡単に「著作物」の複製コピー、ダウンロードなどが可能となり、皆さんのほとんどがネットや書籍の情報をコピーしたり、引用したりして知識の探究・レポート作成を行ったり、音楽をダウンロードして楽しんだりしていることです。

しかし、これら著作者を保護する著作権は排他権というとても強力な権利であることを認

識する必要があります。著作物を公表するかどうか、氏名を表示するかどうか、内容を改変できるかどうか、など著作物に対する種々の条件を決めることができるのは著作者本来の権利で、著作者の死後50年間（映画は公表後70年）も保護されます。したがって、書籍・新聞のコピー、ネット情報のコピー、音楽のダウンロードなどは原則著作者の許可が必要ということになります。

著作権者の許可なしに自由に利用できるのは、「私的使用のための複製」、「図書館などでの複製」、「引用」、「教育機関での複製」、「営利目的でない上演」など法律で限定された場合に限られています。図書館で本の一部分をコピーするのは自由利用であっても、その本をまるまるコピーするのは問題となるなど、自由に利用できる範囲とそうでない境界は微妙なもので、いくつかの条件に従う場合も多くあります。特に、デジタル・ネット技術の余波をうけて法律が技術の進歩をカバー出来ない状況も生じ、解釈が明確でない場合もありますが、これからは著作権の知識を踏まえた上で情報のコピー、ダウンロード、引用を行うべきであることを十分認識しておきましょう。



〈プロフィール〉
野原 時男（のはら ときお）

■所属：東洋大学
知的財産・産学連携推進センター
知的財産管理アドバイザー
「特許法」「知的財産所有権法」講師

■専門分野：国際知的財産ライセンス

■主要学会：日本知財学会、
国際ライセンス協会

■論文等：
“Tests of equivalence doctrine”
Gemstar-TV Guide IP &
Licensing Report,
Technical Bulletin, Vol.4, 2004
「職務発明特許法35条の考察」
1990年12月、日本特許協会 等

著作権クイズ

問題1

新入生のA君は、レポートを書く際に、自分と同じ考えの記述がインターネットで見つかったので、その一部をコピペして、自分の文章としてレポートを仕上げました。○か×か？

問題2

2年生のBさんは、今ゼミナールで取り扱っているテーマに関して、興味深い新聞記事を見つけました。他の学生にも読んでもらいたいと思い、次の授業で記事の切り抜きを人数分コピーして配布しました。○か×か？

■問題1の答え ×（但し、引用の条件を満たせば引用できる）

一般的にインターネット上にある記述も、著作物として扱われますので、無断で使用することはできません。但し、著作権法第32条に「公表された著作物は、引用して利用することができる」とあります。公表された著作物の「引用」は、自分の考えの正当性を補強して解説する場合などに認められます。

他人の著作物を「引用」する場合のルールとして、

- ①自説が「主」で引用箇所が「従」の関係であること、
- ②引用した部分が「」などで囲われて他の部分と区別がつくこと（原則として原文のまま）、
- ③なぜ「引用」するのか必然性があること、が条件になります。

そして、「引用」した部分については、「出所の明示」が必要です。つまり、その文章がどこから引用されたものかを明示する必要があります（著作権法第48条）。また、インターネット上の情報は膨大で、それが研究や調査の結果公表された正確な情報であるかどうかを判断することは、大変難しいことです。レポートや論文を執筆する際は、出版された図書や雑誌、大学が契約しているデータベースや電子ジャーナルなどを参考にするのがよいでしょう。

著作権法	（引用）
	第三十二条 公表された著作物は、引用して利用することができる。この場合において、その引用は、公正な慣行に合致するものであり、かつ、報道、批評、研究その他の引用の目的上正当な範囲内で行なわれるものでなければならない。
	（出所の明示）

第四十八条 著作物の出所を、その複製又は利用の態様に応じ合理的と認められる方法及び程度により、明示しなければならない。

■問題2の答え ○

著作権法第35条により、大学などの授業において必要な範囲で新聞記事をコピーし配布することは、教員にも授業を受ける学生にも認められています。但し、授業以外の使用や必要以上の部数をコピーすることは認められていません。その場合でも、記事の「出所の明示」は必要です。

著作権法	（学校その他の教育機関における複製等）
	第三十五条 学校その他の教育機関（営利を目的として設置されているものを除く。）において教育を担任する者及び授業を受ける者は、その授業の過程における使用に供することを目的とする場合には、必要と認められる限度において、公表された著作物を複製することができる。ただし、当該著作物の種類及び用途並びにその複製の部数及び態様に照らし著作権者の利益を不当に害することとなる場合は、この限りでない。

監修：東洋大学知的財産管理アドバイザー 野原時男

参考資料：文化庁著作権ホームページ<http://www.bunka.go.jp/chosakuken/index.html>（参照2012.11.7）
CRIC公益社団法人著作権情報センターホームページ<http://www.cric.or.jp/index.html>（参照2012.11.7）

東洋大学 創立125周年記念 特別展示報告



『存在の謎に挑む 哲学者井上円了』

●日時：2012年5月30日（水）～6月5日（火）9:00～21:00
（初日10:00開場、最終日16:00閉場）

●場所：丸善 丸の内本店（丸の内OAZO）4階 ギャラリー

●共催：東洋大学井上円了記念学術センター／東洋大学井上円了記念博物館

●協力：丸善／ジュンク堂書店／三省堂書店／紀伊國屋書店

本展示会では、哲学者、教育者、そして迷信打破の妖怪博士としても知られる本学創立者・井上円了博士関係の資料とともに、東洋大学の「知」の資産である図書館所蔵貴重古典籍などが公開され、会期中約3,000名の来場者がありました。

展示は3章構成になっており、第1章は「学祖井上円了の目指したもの ―哲学と教育に捧げた生涯―」と題し、井上円了の学生時代から東洋大学設立までの歴史や愛用品を展示。第2章は「不思議庵主人・井上円了 ―迷信打破の黎明―」として、井上円了が世界で初めて科学的に不思議現象を解明した「妖怪学」に関する資料を中心に展示。第3章は、「東洋大学の「知」の資産 ―貴重古典籍への誘い―」とし、本学に保管される貴重な古典籍を展示しました。

また、6月3日（日）には展示内容に関して、三浦節夫ライフデザイン学部教授による「井上円了と勝海舟一時代を創った男たち」と神作光一名誉教授による「百人一首の裾野のひろがり」の講演会が行われました。



ウィリアム・バトラー・イェイツ展

●日時：2012年10月15日（月）～11月30日（金）

●場所：白山キャンパス 白山図書館

●後援：アイルランド大使館



井上円了が教育制度視察に赴いたアイルランド。現在も本学とアイルランドとは協定校における学生交流等のつながりがあります。

今回アイルランド大使館の後援により、アイルランドのノーベル文学賞受賞作家であり、また日本の能の影響を受けたことでも知られている、ウィリアム・バトラー・イェイツの紹介と、「井上円了とアイルランドーアイルランド視察」「W.B.イェイツと能」「W.B.イェイツと松村みね子」をテーマに展示をしました。



美と創造の万華鏡

●日時：2012年11月23日（金・祝）

●場所：白山キャンパス 125周年記念館（8号館）1階ロビー

『存在の謎に挑む 哲学者井上円了』の展示内容をベースに、新たに「近世文芸の魅力 ―民衆の息吹き―」を加え附属図書館の最重要な所蔵資料の一つである近世文芸のコレクションについて貴重書を展示しました。

当日は東洋大学創立125周年記念祭典が開催され華やかな雰囲気の中、白山キャンパスに新しくできた125周年記念館（8号館）にて展示が行われました。



気になる特別展示の内容は？ 図録『存在の謎に挑む 哲学者井上円了』でCheck!

「東洋大学創立125周年記念事業図書館特別展示」実施に伴い『存在の謎に挑む 哲学者井上円了』展示図録を刊行しました。今回刊行された図録には、井上円了博士と親交の厚かった勝海舟より寄贈された『文殊菩薩像』、近代日本の洋画家・岡田三郎助作の「井上円了の肖像画」、色彩美しい絵巻物や妖怪絵図などが掲載されており、見ごたえある数々の展示物が再び味わえます。本学附属図書館ホームページでは、デジタルパンフレットが閲覧できます。<http://www.toyo.ac.jp/library/>

